



小児歯科臨床研修



小児歯科の臨床研修では何をするの？



口腔衛生指導・予防処置

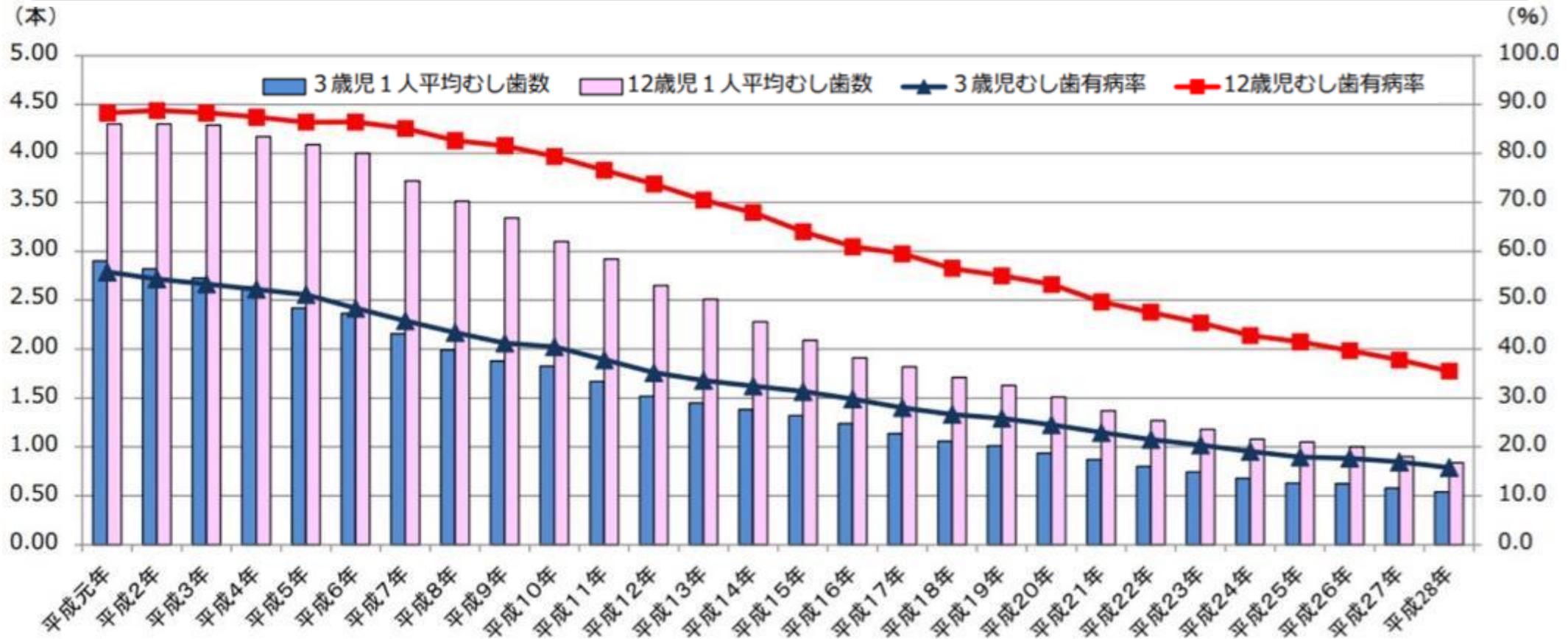


小児患者さんの外来治療

外来では、治療や口腔衛生指導、予防処置などを行っています。健常児だけではなく、病気を持っている小児患者さんなどにも治療を行います。研修医の先生方にも、治療や口腔衛生指導を経験していただきます。

小児のう蝕は減少している

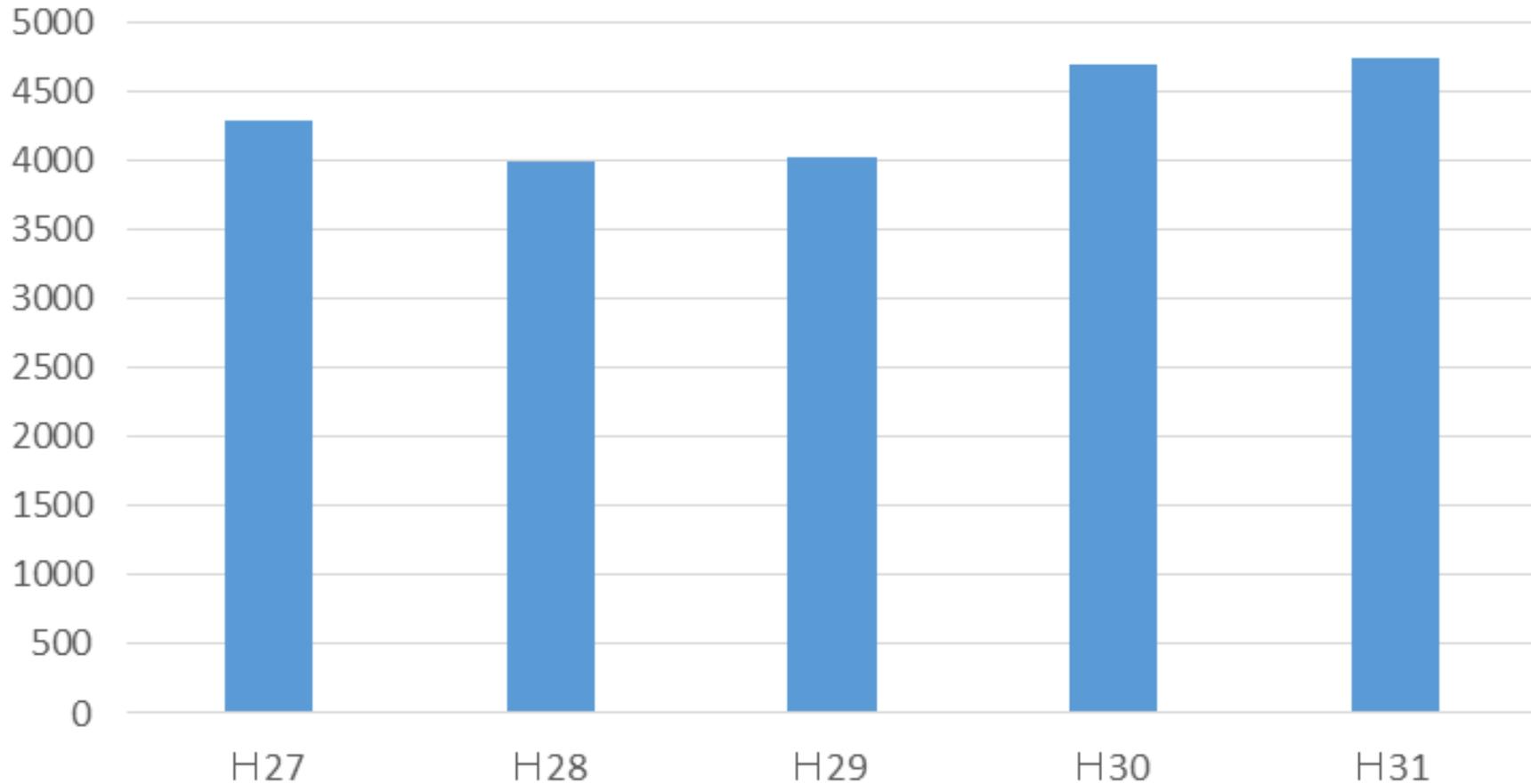
- 3歳児の 1人平均う歯数は、2.90本（平成元年）→0.54本（平成28年）
う蝕有病率は、55.8%（平成元年）→15.8%（平成28年） と年々**減少**。
- 12歳児の1人平均う歯数は、4.30本（平成元年）→0.84本（平成28年）
う蝕有病率は、88.3%（平成元年）→35.5%（平成28年） と年々**減少**。



小児のう蝕は減少している・・・と言いますが、
小児歯科に受診する患者さんはどうでしょうか？



初診患者数



小児歯科を受診する患者さんは減少していない！！

大学病院だけではなく、小児歯科の専門クリニックも沢山の患者さんが受診します。子どもの数は減少していますが、少子化だからこそ専門医の診療を希望する保護者は増加しています。

小児歯科での実際の治療は？



重症う蝕の患者さんが来院しました。
歯科治療が苦手な患者さんで、
治療がなかなかできないようです。

こまったなあ・・・。

このように外来では多数歯う蝕や、重症う蝕の患者さんの治療はまだまだたくさん行っています。



小児歯科での実際の治療は？



充填・歯内療法・抜歯・補綴・予防
すべての治療を行いました。
歯医者さんも好きになってくれました。

小児のう蝕は減少していますが、
小児歯科の専門的な治療を受ける必要がある
患者さんは増加しています。



外来診療だけではありません。
小児歯科医が活躍できる場はたくさんあります

全身麻酔下での治療



医学部付属病院への往診



全身麻酔科での歯科治療や
昭和大学病院への往診(小児科・産婦人科)なども参加してもらいます。
当科では全身麻酔科での歯科治療は、う蝕処置だけではなく、
外科処置など多数の症例があります。
往診は関連の医学部小児科や産婦人科へ往診に行き、
多職種連携について学んでもらいます。

外来診療だけではありません。
小児歯科医が活躍できる場はたくさんあります

保健センターでの研修



小学校などでの歯科教育指導



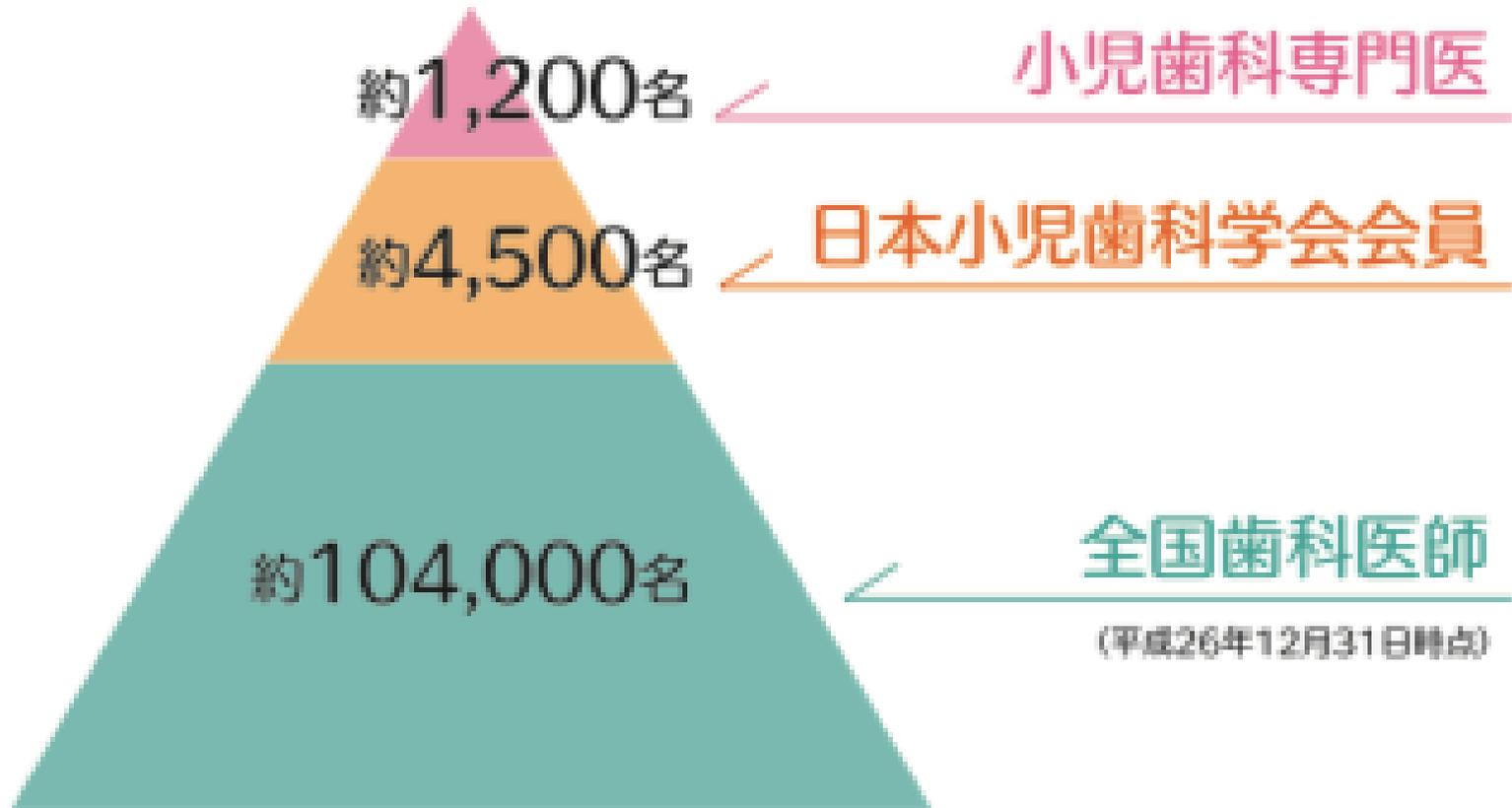
保健センターでの歯科相談では、口腔内の問題(う蝕など)以外にも食事の摂取についてなどいろいろな相談を受けます。

学校歯科医の仕事として、学校健診や歯科保健指導があります。

春や秋の歯科検診をするだけでなく、子ども達に授業をして、歯の大切さを学んでもらったりしています。

研修医の先生にも健診や子ども達への講義お手伝いなどをしてもらいます。

小児歯科専門医取得の指導を行います



小児歯科学会専門医は、厚生労働省の認可を受けた、高度な小児歯科に関する専門的知識並びに治療技術を有する歯科医師です。小児歯科の専門医になるためには、大学での研修や、専門医療機関での研修が必須となります。

希望者には早い時期より専門医の取得のためのトレーニングをしていきます。



質問や相談がある方は
小児歯科の医局に遠慮
なく連絡してください！